

野村マイクロ・サイエンス株式会社 (東証PRM : 6254)

個人投資家様向け説明会資料

1. 会社概要

2. 事業概要

3. 業績

4. 今後の事業戦略

- 商 号 野村マイクロ・サイエンス株式会社
- 所 在 地 神奈川県 厚木市 岡田 2-9-10
- 代 表 者 取締役会長 千田 豊作
代表取締役社長執行役員 内田 誠
- 設 立 1969年4月
- 事 業 内 容
 - 超純水から排水までの水処理に関する各種施設・装置・薬品類の製造販売
 - 水処理・ガス処理等の施設に関する土木工事・管工事及び機械器具設置工事並びに各種施設の設計監理
 - 水処理施設・装置のメンテナンス
 - 各種産業向け純水供給事業
- 資 本 金 2,236百万円 (2024年9月末)
- 連結子会社 国内1社、海外5社 (韓国、米国、中国(2社)、台湾)(2024年9月末)
- 従 業 員 数 405名(単体) 578名(連結) (2024年9月末)

■ 1873年(明治6年)初代野村徳七が大阪で両替商を始める

■ 1907年(明治40年) 2代目信之助が徳七を襲名
一代で金融財閥を作り上げる



■ 野村鋳業 イトムカ鋳業所で水銀の採掘

■ 北興化学工業が農薬などを製造

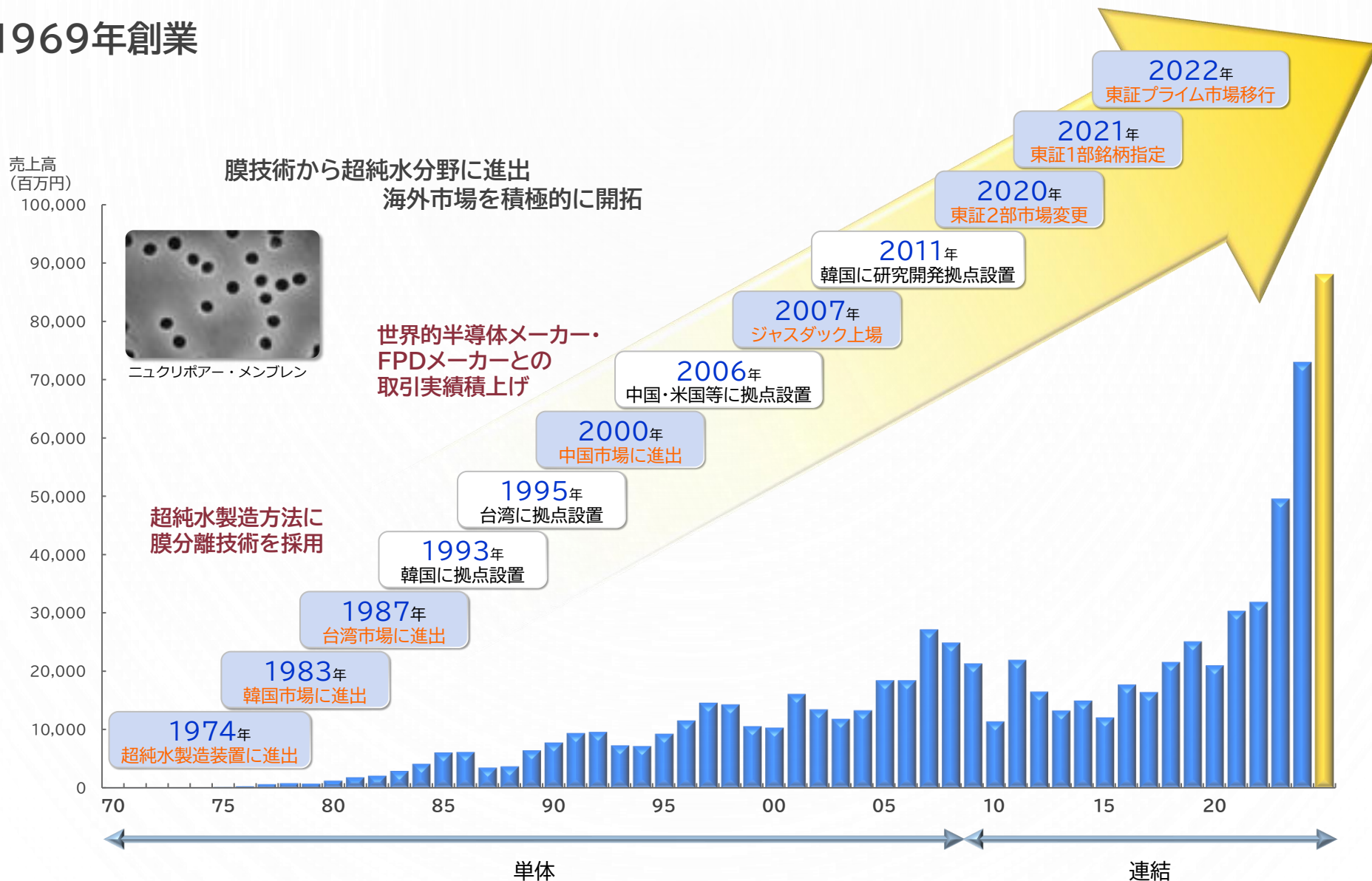


京都・碧雲荘
佛間の二階にあたるところが
徳七の書斎だった

■ 1969年 野村マイクロ・サイエンス 設立

野村海外事業(株)と北興化学工業(株)が中心となり、
野村グループの全面的なバックアップのもと
米国GEの「ニュクリポアー・メンブレン」の
日本及び極東地区独占販売を目的として設立

1969年創業

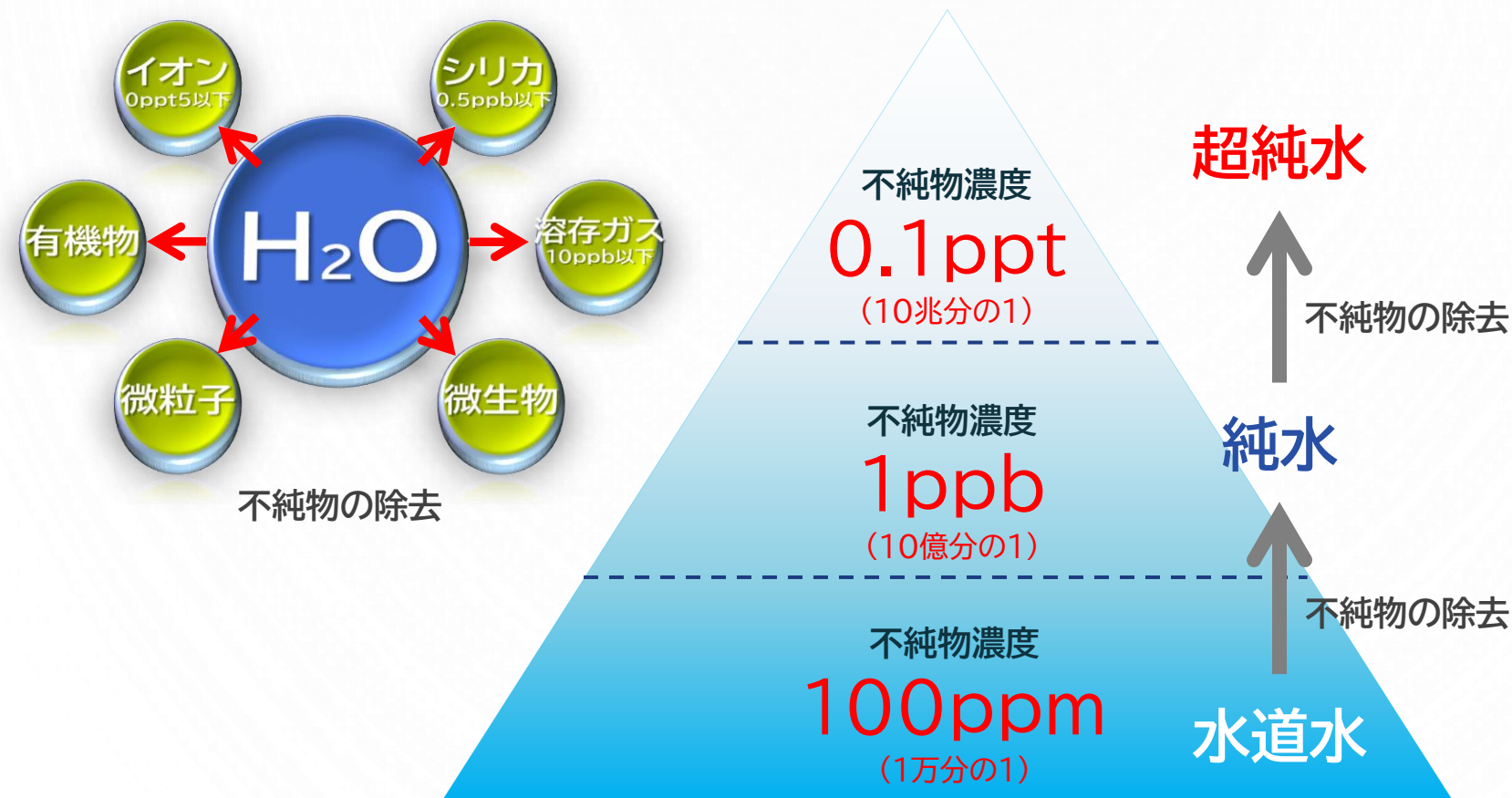


野村マイクロ・サイエンス

「超純水製造装置」に特化したエンジニアリング会社

“純度100%の理論純水”に限りなく近い高純度の純水

水中に混在する不純物を除去した水(純水)を更に精製して純度を高めたもの
(理論純水(H₂O)で満たした東京ドームの中に醤油が1、2滴含まれる程度)



利点

- 豊富で容易に得られる(14億km³)
- 経済的
- 安全
- 溶解性が高い(高い極性を持つ)
- 再利用が比較的容易
- 環境に優しい

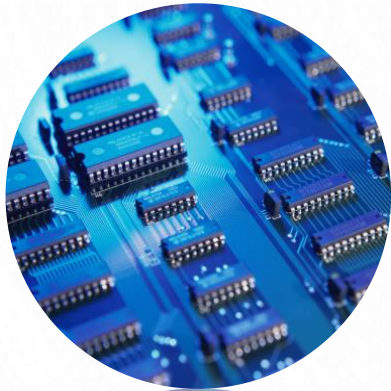
欠点

- 表面張力が高い
- 乾燥しにくい
- 非極性物質は溶解しない



電子機器 や 医薬品 の生産に不可欠なのが **“超純水”**

半導体デバイス

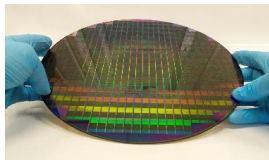


フラット・パネル・ディスプレイ



医薬品



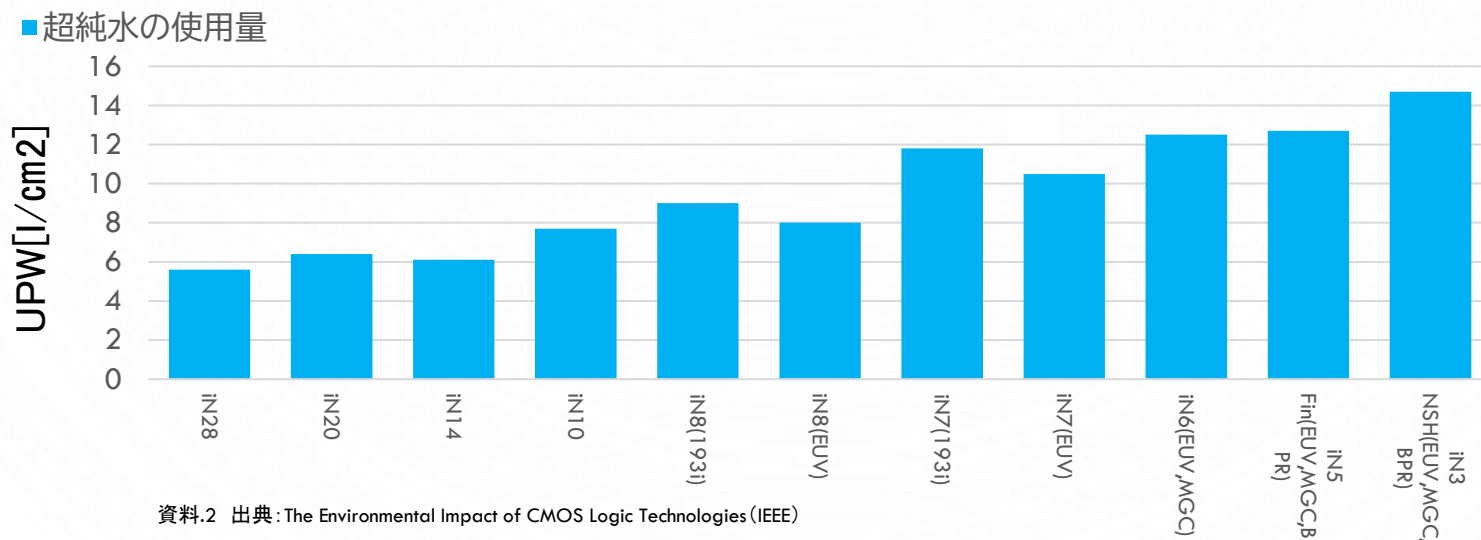


半導体製造工程の約3割は洗浄工程

主にフォトリソの溶解やエッチングの除去、洗浄に使用



今後の微細化・多層化による洗浄工程の増加とともに、超純水の使用量は増加



資料.2 出典: The Environmental Impact of CMOS Logic Technologies (IEEE)

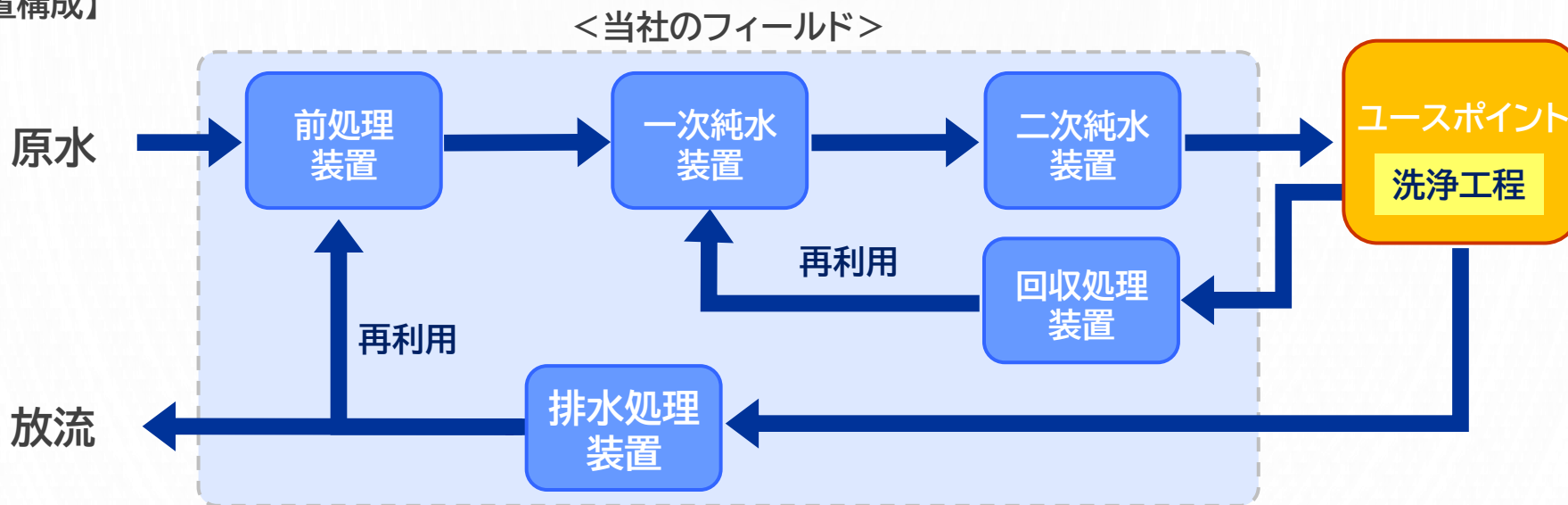
“水の純度”が半導体の性能と品質(歩留まり)に大きく影響

半導体製造技術の高度化・微細化により高純度の超純水が必要



前処理から放流まで、トータルなサービス・製品供給が可能

【装置構成】



【超純水製造装置(水処理プラント)】 ※ イメージ



【主要構成機器】



砂ろ過塔



イオン交換装置



逆浸透装置



EDI本体



有機物分解装置

pptレベルの”超微量分析技術”を核に更なる高純度化に対応



膜分離

水中のイオン、有機物、微粒子、微生物等を除去

フィルター (MF)
逆浸透 (RO)
限外濾過 (UF)



光化学

水中の有機物を分解

低圧紫外線ランプ
高圧紫外線ランプ
(触媒、酸化剤)

コア・コンピタンス

超微量分析技術



分析センター



イオン交換

水中のイオンを吸着除去

カチオン交換樹脂
アニオン交換樹脂
キレート樹脂
電気式脱イオン装置



バイオ

微生物による有機物分解・脱窒素

好気性
嫌気性

1. 会社概要

2. 事業概要

3. 業績

4. 今後の事業戦略

水処理装置事業

92.7%

16,723百万円



超純水製造装置(水処理プラント)



超純水分析



ユニット型純水製造装置

その他の事業

7.3%

1,319百万円



高純度薬品



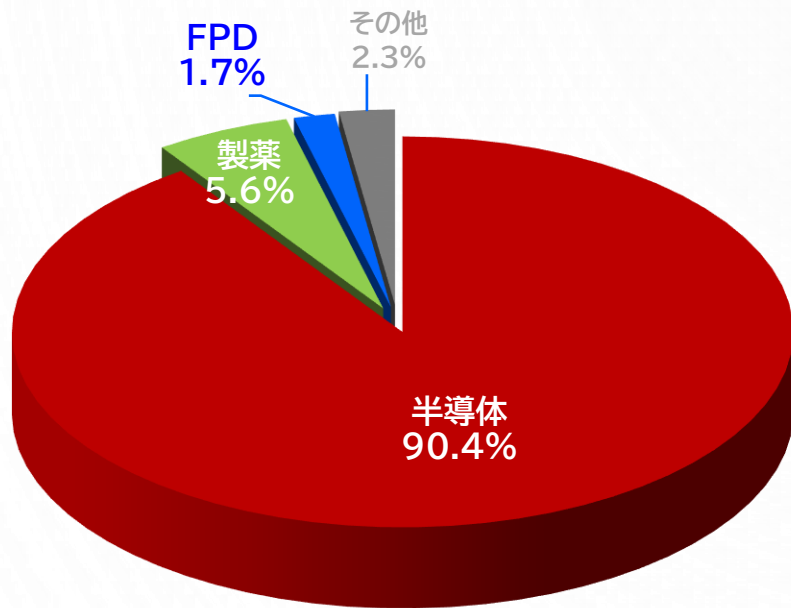
配管材料



■ 水処理装置事業 ■ その他の事業

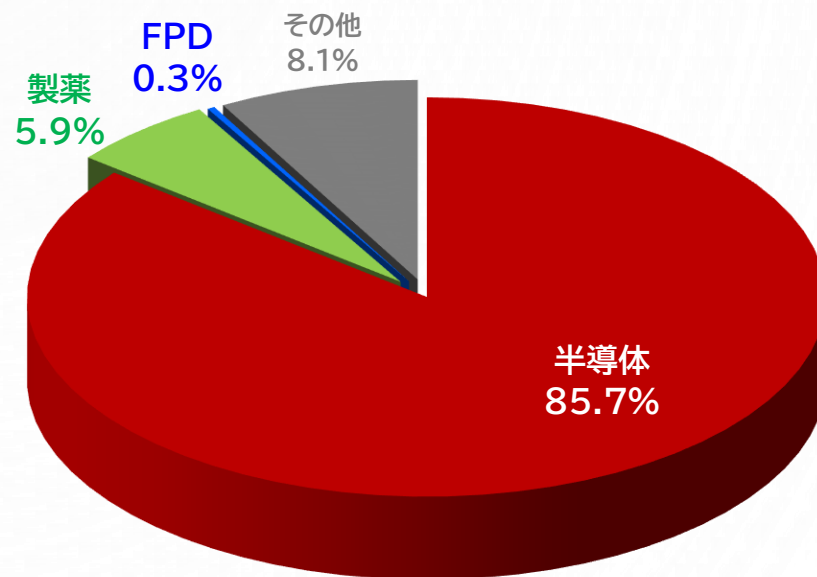
■ 業種(売上相手先)別(メンテナンス・消耗品を含む)

【2024年3月期 中間期】



売上高 365億

【2025年3月期 中間期】



売上高 180億

* FPD:フラットパネルディスプレイ

1 最高純度の水を提供する超純水専門メーカーとして成長

膜分離、イオン交換技術を活用し、1974年から超純水分野に特化

2 海外市場(アジア地域)で強固な事業基盤を構築

業界に先駆けて1980年代から韓国・台湾市場に進出

3 多様化・高度化するユーザーニーズへの対応力

高純度化、環境規制対応、供給水量拡大、短納期化に的確な対応

4 超純水分野で培ったエンジニアリング技術の展開

環境対応をコンセプトに新技術(機能水・ノンケミカル)、新事業(排水回収等)を強化

1. 会社概要

2. 事業概要

3. 業績

4. 今後の事業戦略

- コロナ禍による巣ごもり需要で、次世代通信規格5Gやデータセンター関連等による半導体生産量の大幅な増加
- コロナ禍以降も、スマホやPC等の従来需要に加え、自動車の自動運転技術の高まり、生成AIのカンブリア爆発等により、半導体の用途並びに需要量が急激に増加
- 地政学リスクや経済安全保障に向けた半導体製造強化の為、各国の補助金支援等を背景に半導体工場の建設が加速
- 半導体の微細化、積層化、洗浄工程の増加を背景とした超純水製造装置の大型化により受注高が伸長



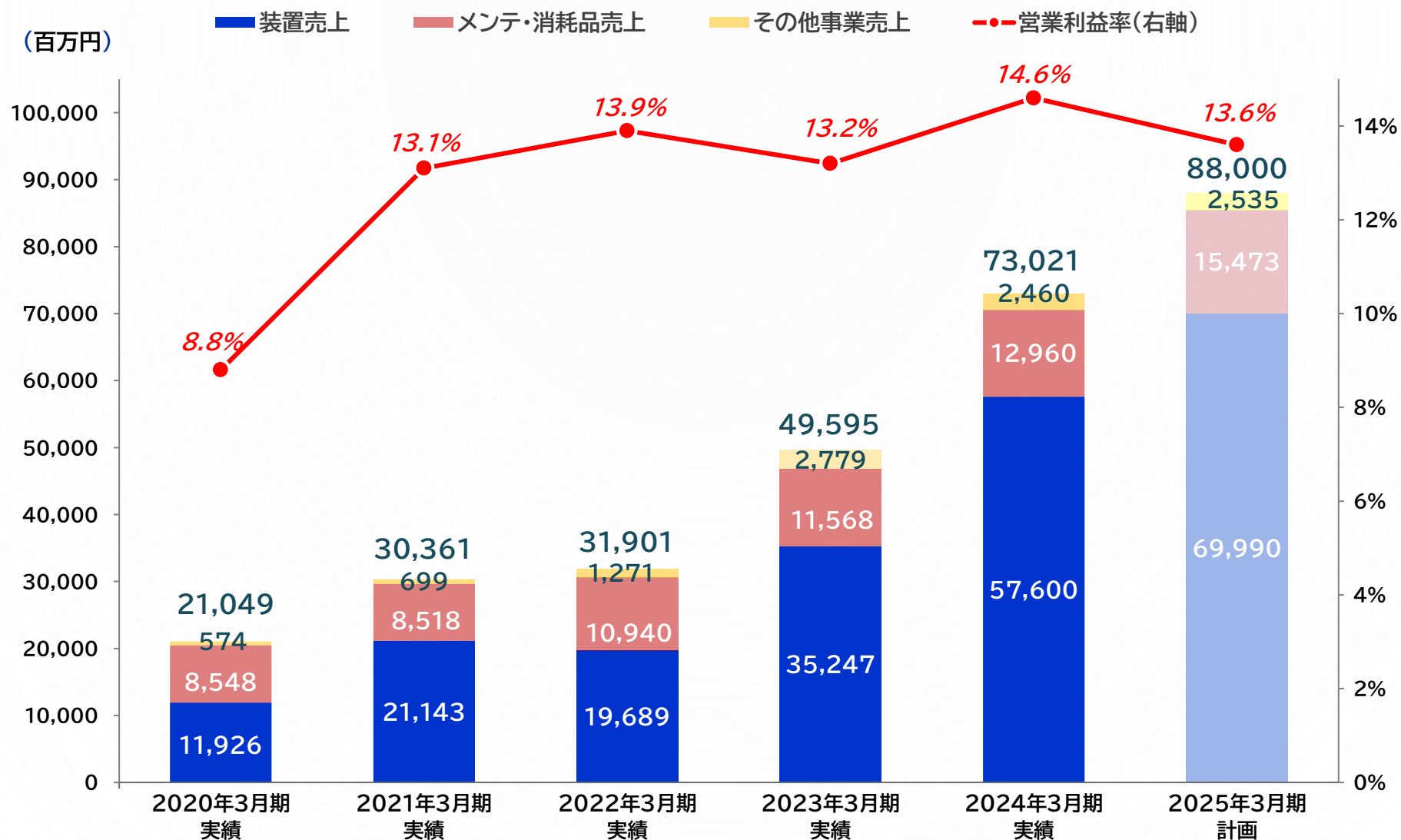
半導体製造設備投資が急伸

2024年3月期業績 及び 2025年3月期 業績見通し(連結)

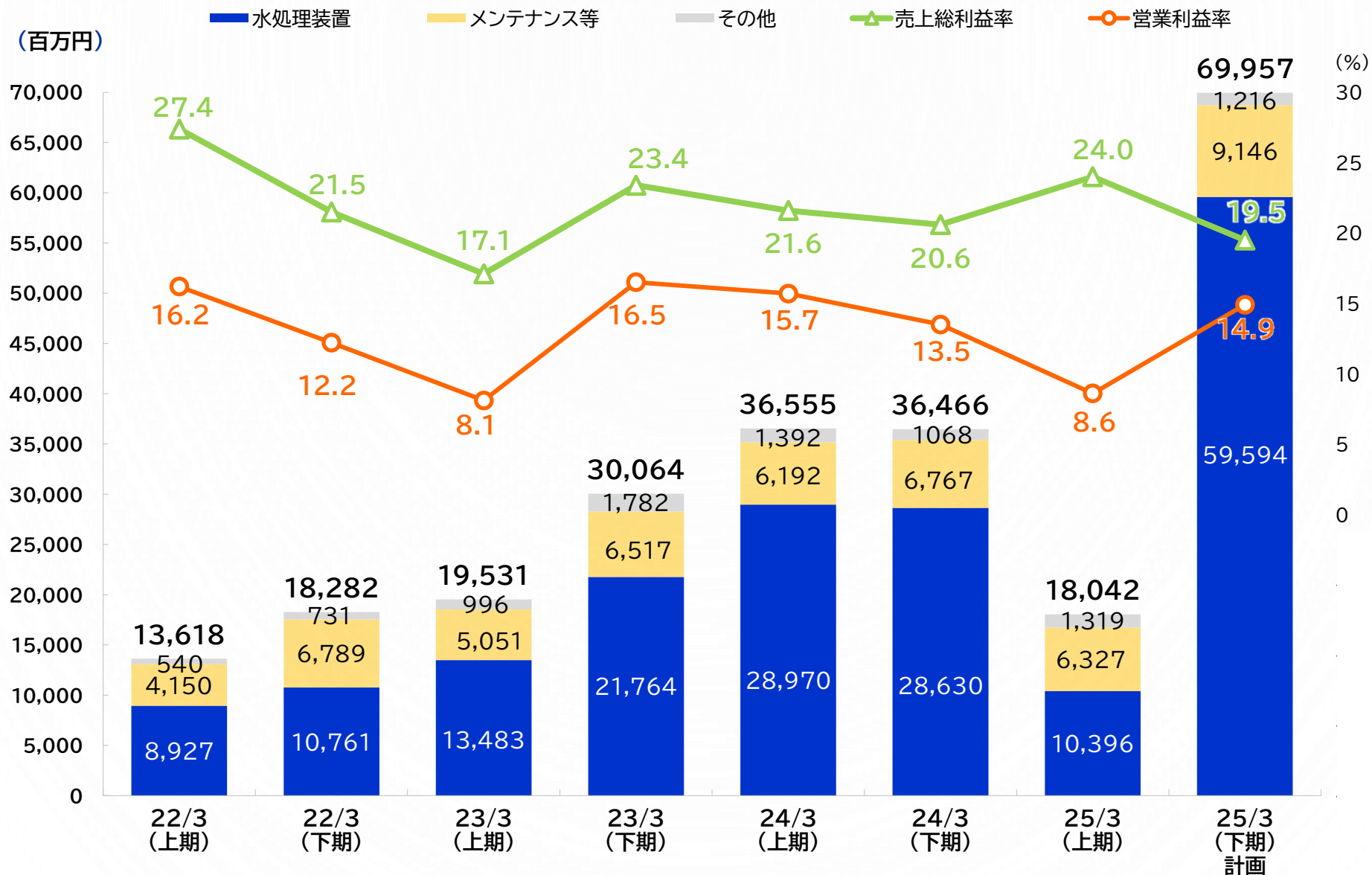
	2024年3月期	2025年3月期 (計画)			
	通期 (百万円)	中間期	通期 (百万円)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	73,021	18,042	88,000	+14,978	+20.5
売上総利益	15,407	4,322	17,964	+2,557	+16.6
営業利益	10,647	1,552	12,000	+1,352	+12.7
経常利益	10,819	59	11,800	+980	+9.1
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,978	28	8,650	+671	+8.4
1株当たり当期純利益	213.47円 (*853.89円)	0.74円	229.77円	+16.30円	+7.6
1株当たり配当金	62.5円 (*250.00円)	20.00円	70.00円	+7.50円	—

*2024年4月1日付株式分割前数値を参考として併記

事業別連結売上高・営業利益率の推移(通期)



業績推移(半期毎)売上高 利益率



2025年3月期 中間期業績(連結)

	2024年3月期 (中間期)		2025年3月期 (中間期)			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	前年同期比	
					増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	36,555		18,042		△18,512	△50.6
売上総利益	7,909	21.6	4,322	24.0	△3,587	△45.4
営業利益	5,722	15.7	1,552	8.6	△4,169	△72.9
経常利益	6,242	17.1	59	0.3	△6,182	△99.0
親会社株主に帰属する 中間純利益	4,061	11.1	28	0.2	△4,033	△99.3

1. 会社概要

2. 事業概要

3. 業績

4. 今後の事業戦略

3 中期経営計画 概要と進捗



TTT-26

Together Toward Transformation-26

Creating the Future through Ultra-Pure Water Technology

～超純水技術で未来を創造する～

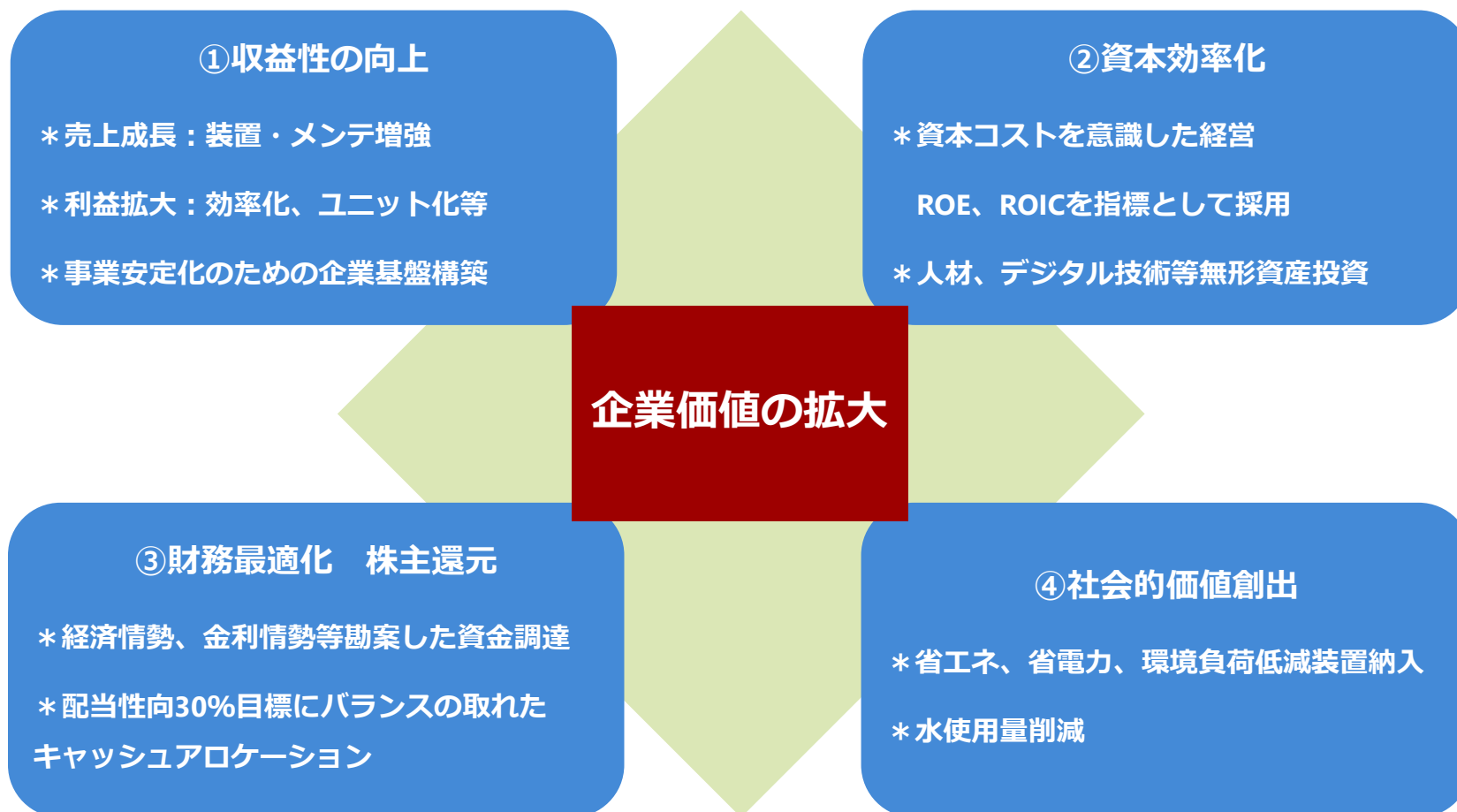
経営ビジョン

- アジアを中心とした半導体・製薬工場向け超純水装置の卓越した会社を目指す
- 高度な技術とサービスを顧客に提供し、ベストパートナーとして共に**経済的価値**と同時に**社会的価値**を創造するサステナビリティ経営を実行する会社を目指す

経営目標

	2027年3月期(中期目標)	2031年3月期(長期目標)
売上高	1,010億円	1,200億円
営業利益	146億円	192億円
営業利益率	14.5%	16.0%
自己資本利益率 (ROE)	25%以上	30%以上
投下資本利益率 (ROIC) *	22%以上	25%以上

*ROIC = 税引営業利益 ÷ (有利子負債 + 株主資本)



企業価値の拡大	取組み	進捗状況
① 営業戦略 収益性拡大	<ul style="list-style-type: none"> 既存取引先との関係強化及び新規顧客開拓 事業安定化に向けた企業基盤構築 	<ul style="list-style-type: none"> 半導体生産拠点の世界各地への分散に対応し、シンガポール現地法人設立を決定、東南アジア・インド等への拡販を目指す さらなる顧客開拓に向け国内外拠点展開を検討
② エンジニアリングプロセスの改革	<ul style="list-style-type: none"> 効率化、ユニット化、スキッド化推進 人材、デジタル技術等無形資産への投資 	<ul style="list-style-type: none"> パートナー企業でのユニット化、スキッド化製作を一層拡大 地域に応じたエンジニアリング会社との戦略的提携 設計業務等に関してAI技術の導入を検討
③ 研究開発 SMART UP3の加速	<ul style="list-style-type: none"> コアコンピタンスである分析技術の強化 環境負荷低減装置の開発 「その先の超純水」の研究開発促進 	<ul style="list-style-type: none"> シングルナノ分析技術確立に向けた投資～新棟建設を計画 大学との共同研究を推進し、プロセスLineへ機能水導入 最先端半導体向け超純水中不純物のさらなる低減
④ 人的資本強化	<ul style="list-style-type: none"> エンジニアを中心とした技術力向上 社員エンゲージメント、経営参画意識向上 	<ul style="list-style-type: none"> エンジニア早期育成のための社内研修制度等の強化（シニア人材による技術継承） 有資格者のスカウティング（中途採用の強化） エンゲージメントサーベイ結果に基づいた改善活動及び社員向けストックオプションの実施

重点施策①：営業戦略 収益性拡大

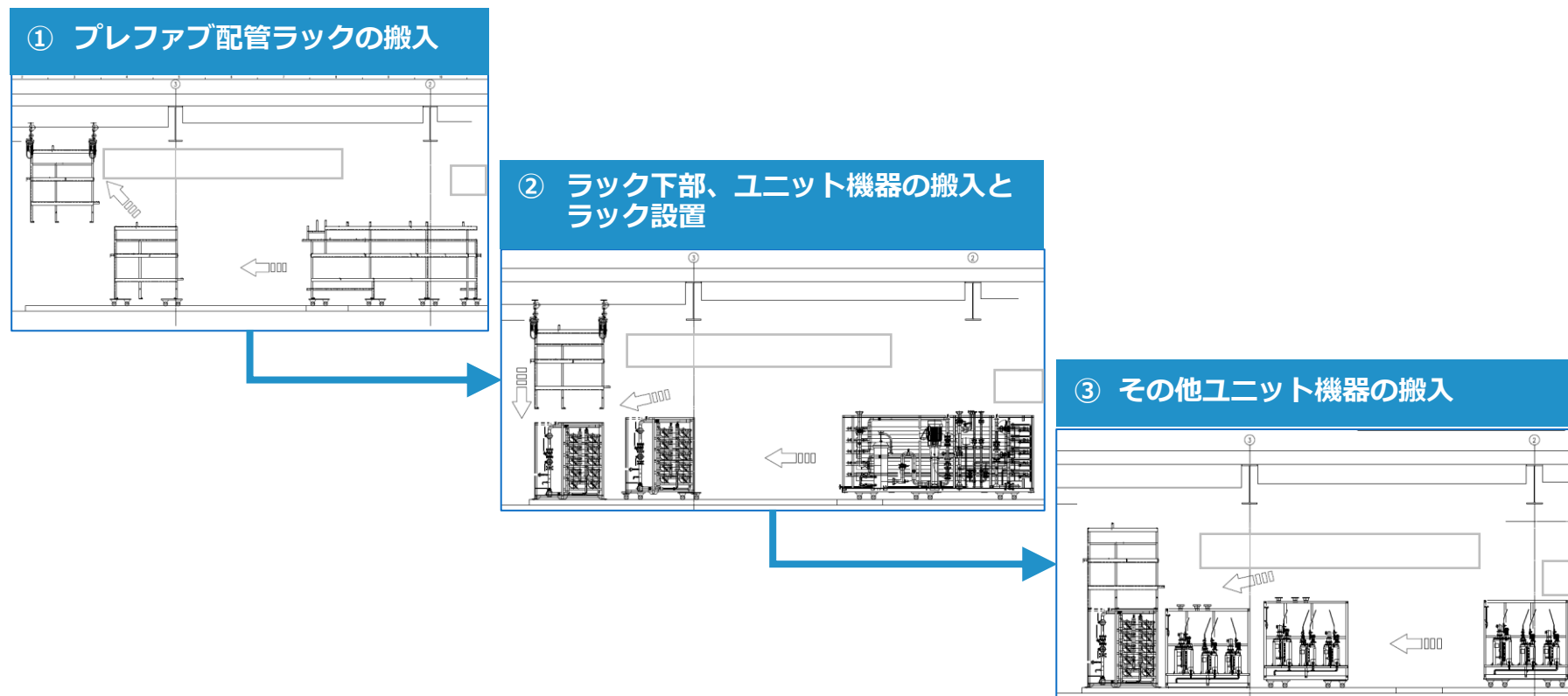
取組み	進捗状況
<ul style="list-style-type: none">既存取引先との関係強及び新規顧客開拓事業安定化に向けた企業基盤構築	<ul style="list-style-type: none">半導体生産拠点の世界各地への分散に対応し、シンガポール現地法人設立を決定、東南アジア・インド等への拡販を目指すさらなる顧客開拓に向け国内外拠点展開を検討



重点施策②：エンジニアリングプロセスの改革

取組み	進捗状況
<ul style="list-style-type: none"> 効率化、ユニット化、スキッド化推進 人材、デジタル技術等無形資産への投資 	<ul style="list-style-type: none"> パートナー企業でのユニット化、スキッド化製作を一層拡大 地域に応じたエンジニアリング会社との戦略的提携 設計業務等に関してAI技術の導入を検討

< プレファブ施工（ユニット化、スキッド化）のイメージ図 >



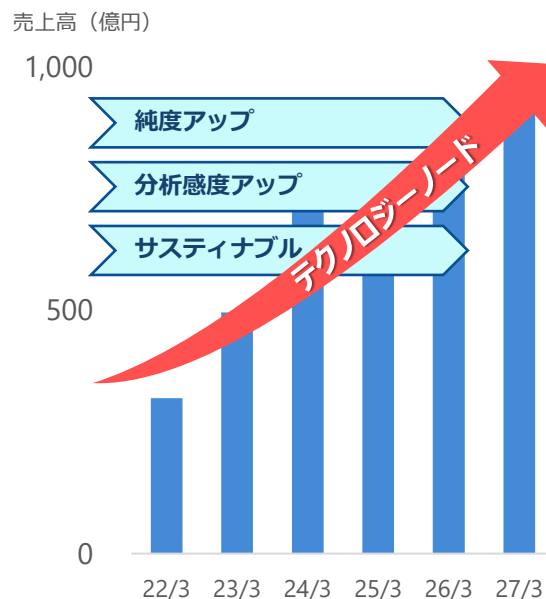
重点施策③：研究開発 SMART UP3の加速

取組み	進捗状況
<ul style="list-style-type: none"> コアコンピタンスである分析技術の強化 環境負荷低減装置の開発 「その先の超純水」の研究開発促進 	<ul style="list-style-type: none"> シングルナノ分析技術等の確立に向けた投資～新棟建設を計画 大学との共同研究を推進し、プロセスLineへ機能水導入 最先端半導体向け超純水中不純物のさらなる低減

SMART UP 3

◆SMART UP3の加速

- 純度アップ
 - ・装置素材の超高純度化
- 分析感度アップ
 - ・ppqレベルの開発に注力
- 環境貢献アップ
 - ・環境負荷低減
 - ・省電力化
 - ・水使用量削減



◆その先の超純水へ

⇒SMART UP3+α

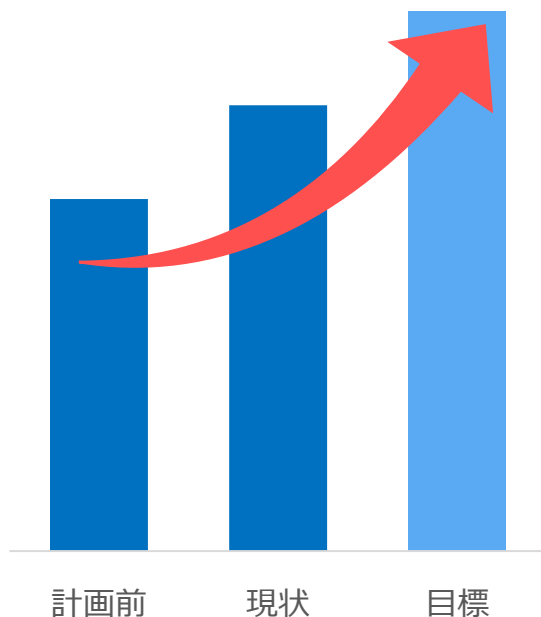
<新棟イメージ>



重点施策④：人的資本強化

取組み	進捗状況
<ul style="list-style-type: none"> エンジニアを中心とした技術力向上 社員エンゲージメント、経営参画意識向上 	<ul style="list-style-type: none"> エンジニア早期育成のための社内研修制度等の強化（シニア人材による技術継承） 有資格者のスカウティング（中途採用の強化） エンゲージメントサーベイ結果に基づいた改善活動及び社員向けストックオプションの実施

エンジニア育成による技術系有資格者推移



◆ エンゲージメント向上について

- 社内エンゲージメントサーベイ実施
- 人事評価制度における加点方式の推進
- 心理的安全性を高める職場作り推進
- 福利厚生制度の改善・充実 等



企業価値の拡大	取組み	進捗状況
① 営業戦略 収益性拡大	<ul style="list-style-type: none"> 既存取引先との関係強化及び新規顧客開拓 事業安定化に向けた企業基盤構築 	<ul style="list-style-type: none"> 半導体生産拠点の世界各地への分散に対応し、シンガポール現地法人設立を決定、東南アジア・インド等への拡販を目指す さらなる顧客開拓に向け国内外拠点展開を検討
② エンジニアリングプロセスの改革	<ul style="list-style-type: none"> 効率化、ユニット化、スキッド化推進 人材、デジタル技術等無形資産への投資 	<ul style="list-style-type: none"> パートナー企業でのユニット化、スキッド化製作を一層拡大 地域に応じたエンジニアリング会社との戦略的提携 設計業務等に関してAI技術の導入を検討
③ 研究開発 SMART UP3の加速	<ul style="list-style-type: none"> コアコンピタンスである分析技術の強化 環境負荷低減装置の開発 「その先の超純水」の研究開発促進 	<ul style="list-style-type: none"> シングルナノ分析技術確立に向けた投資～新棟建設を計画 大学との共同研究を推進し、プロセスLineへ機能水導入 最先端半導体向け超純水中不純物のさらなる低減
④ 人的資本強化	<ul style="list-style-type: none"> エンジニアを中心とした技術力向上 社員エンゲージメント、経営参画意識向上 	<ul style="list-style-type: none"> エンジニア早期育成のための社内研修制度等の強化（シニア人材による教育資料の構築） 有資格者のスカウティング（中途採用の強化） エンゲージメントサーベイ結果に基づいた改善活動及び社員向けストックオプションの実施

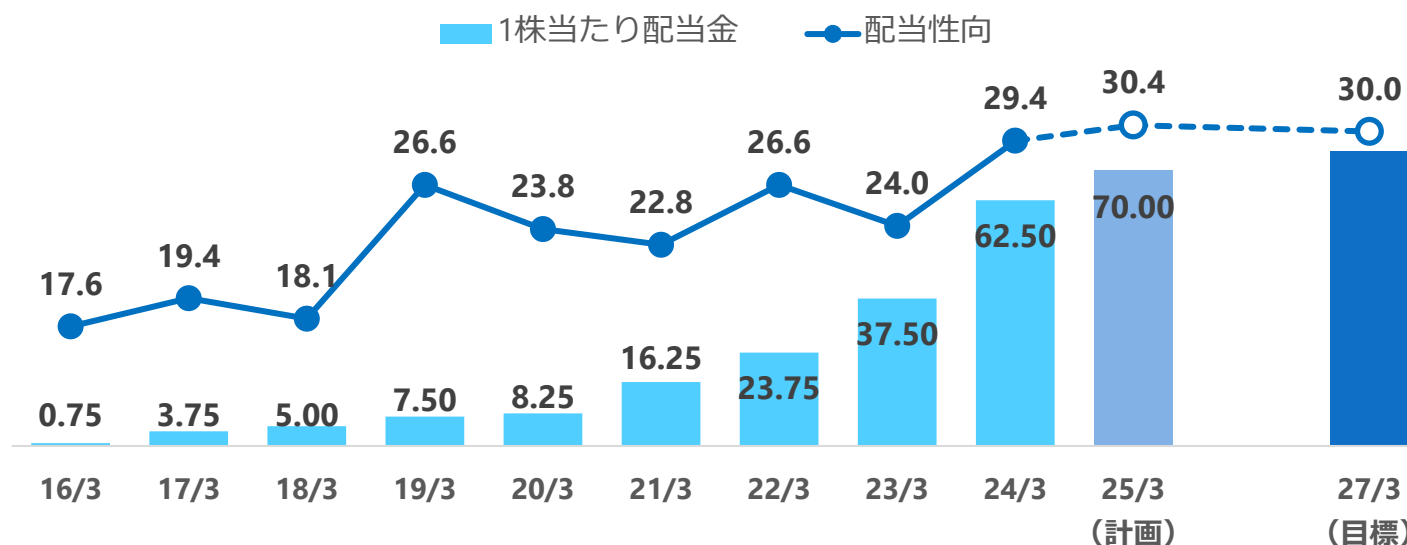
★ 継続的な企業価値拡大とともに安定した株主還元を継続

◆ 9期連続増配中

- 2016.3期より連続増配中

◆ 増収増益基調

- 今後も高い成長が予想される半導体・電子部品及び製薬分野を中心に増収増益を目指し、企業価値拡大を目指す
- 健全な財務基盤を維持しつつ、配当性向30%を目標にバランスの取れたキャッシュアロケーションを実践



* 2024年4月1日付で株式を分割を実施しております（1：4）。

* 過年度の1株当たり配当金は比較のため株式分割後の数値にて試算しております。

- 本資料には野村マイクロ・サイエンス株式会社(以下、弊社)の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。
- これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき弊社が判断した予測です。
- また経済動向、他社との競合状況などの潜在的リスクや不確実な要因も含まれています。その為、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な要因により、記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

【本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先】

野村マイクロ・サイエンス株式会社 総務部

TEL 046-228-5195

URL <https://www.nomura-nms.co.jp>